



# GENECODE

ジーンコード ver 3

ユーザマニュアル

---

運用マニュアル(従量課金編)

第 1 版

最終更新日 2018/12/20

## 目次

第 1 章	はじめに.....	5
1-1	システム構成.....	5
1-2	初期設定の概要.....	6
1-3	運用の概要.....	6
1-4	変換回数の測定.....	6
第 2 章	トラッキングコードの配置.....	7
第 3 章	ジーンコード設定ファイルの編集.....	9
第 4 章	Google Analytics の設定.....	10
4-1	コンテンツグループの設定.....	10
4-2	カスタムレポートのインポート.....	12
第 5 章	タグマネージャの設定.....	13
5-1	変数の追加.....	13
5-2	Google Analytics タグの設定変更.....	14
第 6 章	ジーンコード変換レポートの提出.....	15

## 【注意事項】

※本マニュアルでは、以下のディレクトリを前提とした手順を記載しています。上記以外にインストールされている場合は、適宜読み替えをお願いします。

- Apache インストールディレクトリ: /usr/local/apache
- GeneCode アプリケーションディレクトリ: /home/genecode

**改訂履歴**

版数	発行日	改訂内容
第 1 版	2018 年 12 月 20 日	・初版発行

## 第1章 はじめに

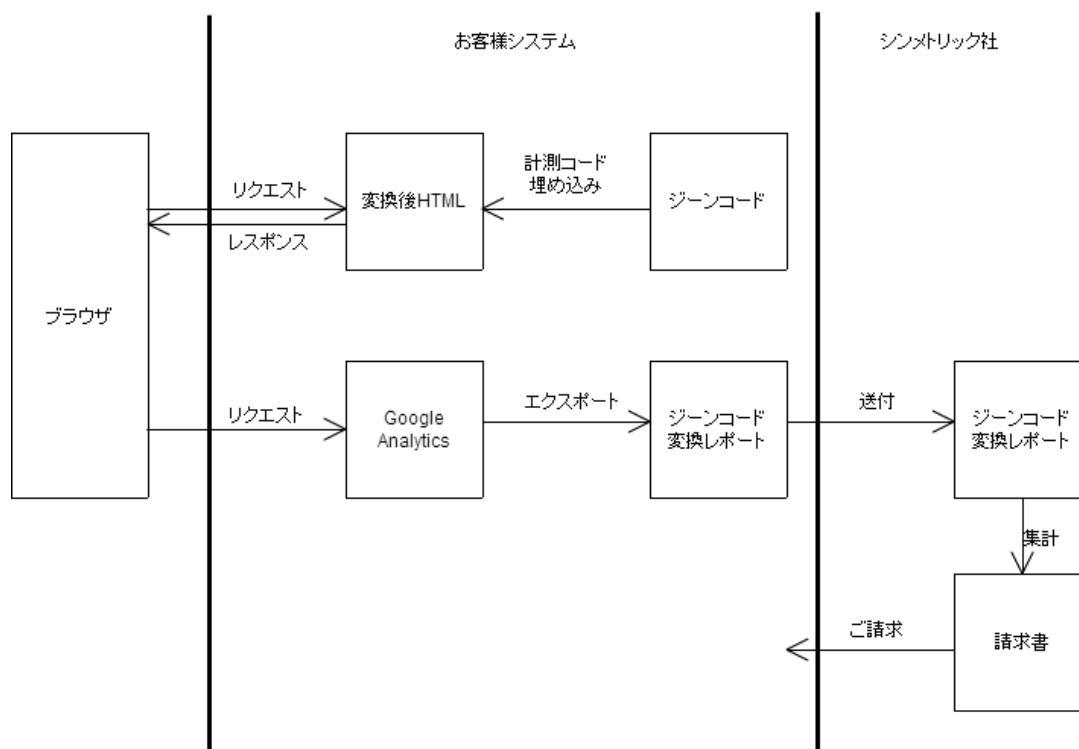
このドキュメントでは、従量課金に対応したライセンスで行われる課金の仕組み及び運用から請求までの流れを説明します。

従量課金ライセンス以外のライセンスをご利用の方は、このドキュメントの対象外です。

### 1-1 システム構成

ジーンコード ver 2 の従量課金ライセンスでは、Google Analytics を使用してジーンコードによる変換回数を計測します。Google Analytics から出力したジーンコード変換レポートをシンメトリック社に送付していただきますと、請求金額が確定します。

従量課金ライセンスはジーンコード ver 2.2 以降で対応しています。



## 1-2 初期設定の概要

従量課金を利用するには、お客様システム側の設定が必要です。以下に設定の概要を示します。

項目	詳細	説明ページ
トラッキングコードの配置	変換元 Web ページに Google Analytics のトラッキングコードを埋め込みます。既にトラッキングコードが埋め込まれている場合には作業不要です。	第 2 章
ジーンコード設定ファイルの編集	設定ファイル httpd-genecode.conf を編集し、従量課金を有効にします。	第 3 章
Google Analytics の設定	Google Analytics の設定を変更し、ジーンコード変換レポートを出力できるように設定します。	第 4 章
タグマネージャの設定	タグマネージャの設定を変更し、ジーンコード経由のアクセスが正しく計測されるようにします。タグマネージャを使用している場合のみ、必要です。	第 5 章

## 1-3 運用の概要

ジーンコード変換レポートを毎月弊社まで送付いただきます。詳しくは第 6 章を参照してください。

## 1-4 変換回数の測定

ジーンコードは変換元 Web ページへ配置されたトラッキングコードに対し、計測用コードを追加する変換を行います。具体的にはジーンコードで変換したページに対しては、コンテンツグループ 5 に”GENECODE”という値を割り当てます。つまり、コンテンツグループ 5 が”GENECODE”となるアクセス数に変換回数となります。

なお、既にコンテンツグループ 5 を別の目的で利用している場合は、別のコンテンツグループへの割り当てを行う必要があります。詳しくは弊社ジーンコードサポートまでお問い合わせください。

## 第2章 トラッキングコードの配置

---

ジーンコードでは、変換元となる Web ページに配置された Google Analytics のトラッキングコードを利用します。

変換元 Web ページにトラッキングコードが含まれていない場合は、トラッキングコードを追加してください。既にトラッキングコードが埋め込まれている場合には作業不要です。

トラッキングコードは、ユニバーサルアナリティクス(analytics.js)および標準のアナリティクス(gajs)に対応します。Google タグマネージャを利用することもできます。

以下にトラッキングコードの例を示します。

### トラッキングコードの例 (ユニバーサルアナリティクス)

```
<!-- Google Analytics -->
<script>
(function(i,s,o,g,r,a,m){i['GoogleAnalyticsObject']=r;i[r]=i[r]||function(){
(i[r].q=i[r].q||[]).push(arguments)},i[r].l=1*new Date();a=s.createElement(o),
m=s.getElementsByTagName(o)[0];a.async=1;a.src=g;m.parentNode.insertBefore(a,m)
})(window,document,'script','//www.google-analytics.com/analytics.js','ga');

ga('create','UA-XXXXX-Y','auto');
ga('send','pageview');
</script>
<!-- End Google Analytics -->
```

## トラッキングコードの例（標準のアナリティクス）

```

<script type="text/javascript">

var _gaq = _gaq || [];
_gaq.push(['_setAccount', 'UA-XXXXX-X']);
_gaq.push(['_trackPageview']);

(function() {
  var ga = document.createElement('script'); ga.type = 'text/javascript'; ga.async = true;
  ga.src = ('https:' == document.location.protocol ? 'https://ssl' : 'http://www') +
    '.google-analytics.com/ga.js';
  var s = document.getElementsByTagName('script')[0]; s.parentNode.insertBefore(ga, s);
}) ();

</script>

```

## トラッキングコードの例（タグマネージャ）

```

<!-- Google Tag Manager -->
<noscript><iframe src="//www.googletagmanager.com/ns.html?id=GTM-XXXXXX"
height="0" width="0" style="display:none;visibility:hidden"></iframe></noscript>
<script>(function(w,d,s,l,i){w[l]=w[l]||[];w[l].push({'gtm.start':
new Date().getTime(),event:'gtm.js'});var f=d.getElementsByTagName(s)[0],
j=d.createElement(s),dl=l!='dataLayer'?'&l='+l:'';j.async=true;j.src=
'//www.googletagmanager.com/gtm.js?id='+i+dl;f.parentNode.insertBefore(j,f);
})(window,document,'script','dataLayer','GTM-XXXXXX');</script>
<!-- End Google Tag Manager -->

```



## 第3章 ジーンコード設定ファイルの編集

---

従量課金を有効にするためにジーンコード設定ファイルの編集を行います。

編集手順は以下の通りです。

※以下の例では、Apache インストールディレクトリが`/usr/local/apache` の場合を想定しています。

1. `/usr/local/apache/conf/httpd-gencode.conf` をエディタで開きます。

(例) `vi /usr/local/apache/conf/httpd-gencode.conf`

2. “GCHtmlUsageTraking On”部分のコメントアウトを外します。

```
#-----  
# gencode html module  
#-----  
LoadModule gc_html_module modules/mod_gc_html.so  
<IfModule gc_html_module>  
    :  
    :  
    GCHtmlMaxRss 150  
    GCHtmlUsageTracking On  
</IfModule>
```

3. Apache を再起動します。

(例) `/usr/local/apache/bin/apachectl restart`

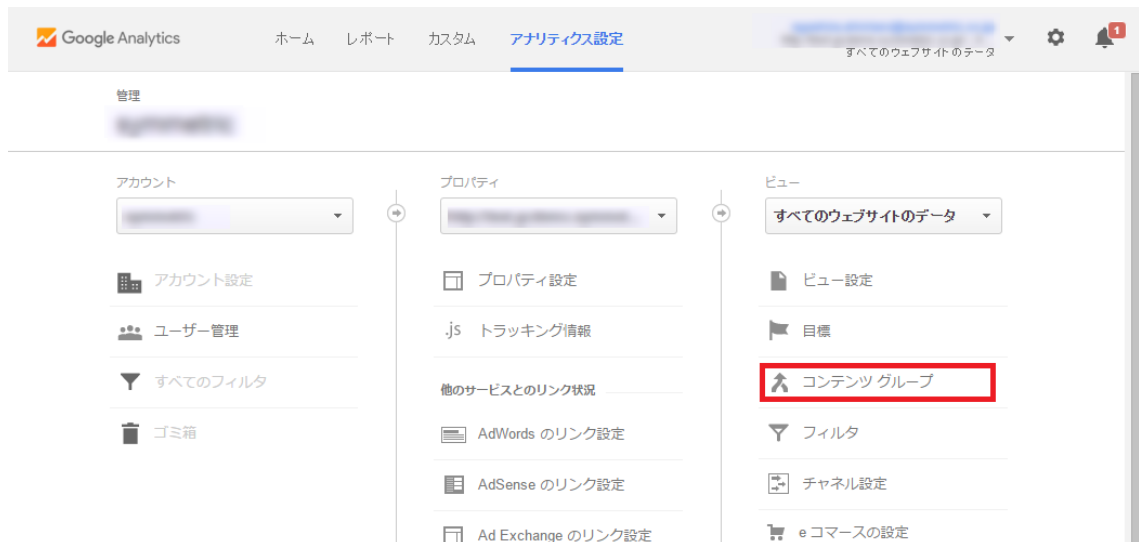
## 第4章 Google Analytics の設定

Google Analytics の設定を変更し、ジーンコード変換レポートが出力できるようにします。

### 4-1 コンテンツグループの設定

以下の手順に従い、コンテンツグループ 5 を設定します。

1. Google Analytics にログインします。
2. [アナリティクス設定]をクリックします。
3. コンテンツグループをクリックします。



4. [新しいコンテンツグループ]ボタンをクリックします。

5. 名前に"GENECODE"を入力し、[トラッキングコードの有効化]をクリックします。またインデックス番号として"5"を選択します。

## コンテンツ グループ設定

名前

GENECODE

グループ化の設定

コンテンツグループでは、サイトやアプリのコンテンツを論理的に集め、レポートでプライマリディメンションとして使用することができます。コンテンツをグループ化するには、下記のいずれかまたは複数の方法を使用してください。 [詳細](#)

> **トラッキングコード別にグループ化**

### 1. **トラッキングコードの有効化**

有効化

オン

インデックスを選択

5 ▼ インデックス番号 (1~5) を選択します。

JavaScript トラッキングコードを編集し、次のいずれかのスニペットを追加します。 [詳細](#)

従来のアナリティクス トラッキングコード (ga.js) :

```
_gaq.push(['_setPageGroup', 5, 'My Group Name']);
```

ユニバーサル アナリティクス トラッキングコード (analytics.js) :

6. [保存]ボタンをクリックします。

## 4-2 カスタムレポートのインポート

以下の手順に従い、ジーンコード変換レポートをインポートします。

1. 以下の URL にアクセスします。

<https://www.google.com/analytics/web/template?uid=To5Goq7hR8CBsGTtZneWlw>

2. Google アカウントでログインします。
3. カスタムレポートのインポート画面が表示されます。



**i** カスタムレポートの設定が共有されました。  
この設定をインポートするには、Google アナリティクスのアカウントからビューを選択してください。

ビューを選択

ジーンコード変換レポート

作成 キャンセル

4. 任意のビューを選択し、[作成]ボタンをクリックします。
5. グローバルメニューで[カスタム]を選択します。
6. カスタムレポート内の「ジーンコード変換レポート」をクリックすると、ページビュー数が表示されます。

## 第5章 タグマネージャの設定

タグマネージャを使用して、Google Analytics タグを設定している場合は、以下の手順でコンテンツグループを設定します。タグマネージャを使用していない場合は、設定不要です。

### 5-1 変数の追加

1. タグマネージャにログインします。
2. グローバルメニューで[コンテナ]をクリックします。
3. [変数]メニューをクリックします。
4. ユーザー定義変数の[新規]ボタンをクリックします。
5. 種類を DOM 要素、選択要素を CSS セレクタ、要素セレクタを meta[name=converter]、属性名を content に指定します。

検索

- サマリー
- タグ
- トリガー
- 変数
- フォルダ

名前のない変数 未整理のアイテム

1 種類を選択

DOM 要素

2 変数を設定

選択方法

CSS セレクタ

指定セレクタの最初の結果から要素を取得します。  
警告: Internet Explorer 7 ではサポートされていません。Internet Explorer 8 では CSS 2.1 セレクタのみがサポートされています。

要素セレクタ

meta[name=converter]

属性名 ?

content

変数を作成 Cancel

6. [変数を作成]ボタンをクリックします。

- 変数名として”meta 要素の converter 属性”を入力し、[保存]をクリックします。

## 5-2 Google Analytics タグの設定変更

- タグマネージャにログインします。
- グローバルメニューで[コンテナ]をクリックします。
- [タグ]メニューをクリックします。
- 配信するタイミングを“すべてのページ”に設定している Google Analytics タグを選択します。
- [3.タグを設定]ステップ内の[その他の設定]をクリックします。
- コンテンツグループ欄でインデックスを 5、コンテンツグループを変数”meta 要素の converter 属性”に指定します。

3 タグを設定

トラッキング ID ?

デisplay広告向け機能を有効にする ?

トラッキングタイプ

ページビュー

▼ その他の設定

- > 設定するフィールド
- > カスタム ディメンション
- > カスタム指標

▼ コンテンツグループ

インデックス	コンテンツグループ
5	{{meta要素のconverter属性}}

+ コンテンツグループ

削除

- [タグを保存]ボタンをクリックします。

## 第6章 ジーンコード変換レポートの提出

---

毎月 5 営業日までに以下の手順でジーンコード変換レポートの提出をお願いします。

1. グローバルメニューで[カスタム]を選択します。
2. カスタムレポート内の「ジーンコード変換レポート」をクリックします。
3. レポートの期間を前月の 1 か月間に設定します。  
例: 2015/10/01~2015/10/31
4. レポートで時間帯の見出しをクリックし、昇順ソートを行います。
5. [表示する行数]を変更し、レポートの全期間(1 か月分)が表示されるようにします。
6. [エクスポート]-[PDF]を選択し、pdf ファイルをダウンロードします。
7. [エクスポート]-[Excel(XLSX)]を選択し、Excel ファイルをダウンロードします。
8. 6 の pdf ファイルと 7 の Excel ファイルをセットにし、ジーンコード課金レポート送付先アドレス (genecode\_charge@symmetric.co.jp) にメールで提出します。